北 海 道 浮 魚 ニ ュ ー ス

令和 4（2022）年度 3 号
2022 年 5 月 31 日
道総研　水産研究本部　函館水産試験場
【URL】http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/kushiro/section/zoushoku/ukiuo_news.html

◎日本海スルメイカ北上期調査結果

5 月 20 日～25 日の期間、津軽海峡周辺から秋田県沖にかけての日本海で、函館水産試験場調査船金星丸（151 トン、イカ釣機 5 台、集魚灯 20 灯装備）により実施したスルメイカ調査の結果をお知らせします。

- スルメイカの分布は非常に低密度で、全漁獲調査点の平均 CPUE は昨年並みで過去 5 年平均を下回った。
- 体サイズは昨年および過去 5 年平均と同程度であった。

1. 水温分布（図 1）

漁獲調査点 5 地点の表面水温は 12.9～16.2℃（昨年は 13.9～15.2℃）、深度 50m の水温は 4.9～11.9℃（昨年は 10.1～11.8℃）の範囲にありました。

スルメイカの分布の目安となる深度 50 m で 10℃以上の水温帯は、北緯 40° 10’線付近以南では沖合まで広く分布していましたが、それ以北では東経 139° 20’線付近から沿岸側に限られ、調査海域の北西側では例年以上に沖合冷水が沿岸寄りに張り出していました。

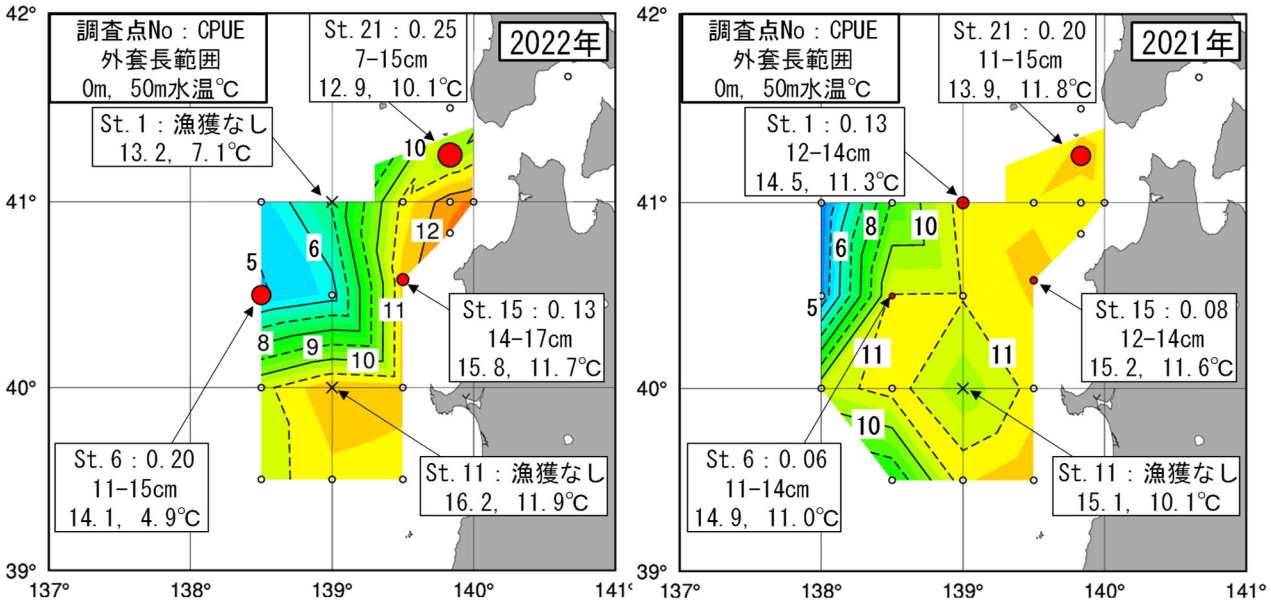

図1　スルメイカ漁獲調査結果と深度50mの等温線図（左：2022年、右：2021年）
矢印の先は漁獲調査点で●の大きさはCPUEに比例、×は漁獲なし
○は海洋観測のみの調査点（2022年の東経138°線の海洋観測は中止）

2. 流向流速分布

航行中の ADCP 観測により得られた深度 50m における航路上の流向流速を図 2 に示します。水温分布と照らし合わせると、対馬暖流は北緯 40° 10’付近の沖合から沿岸へ向かい、東経 139° 20’線付近で向きを変え北上していました。

道総研では北海道周辺海域で、2 ヶ月ごとに 3 隻の調査船を用いて定期海洋観測を行い、海況速報を発信しています。以下の URL にて公開していますので、こちらもご参照下さい。
https://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/central/section/kankyou/sokuhou/

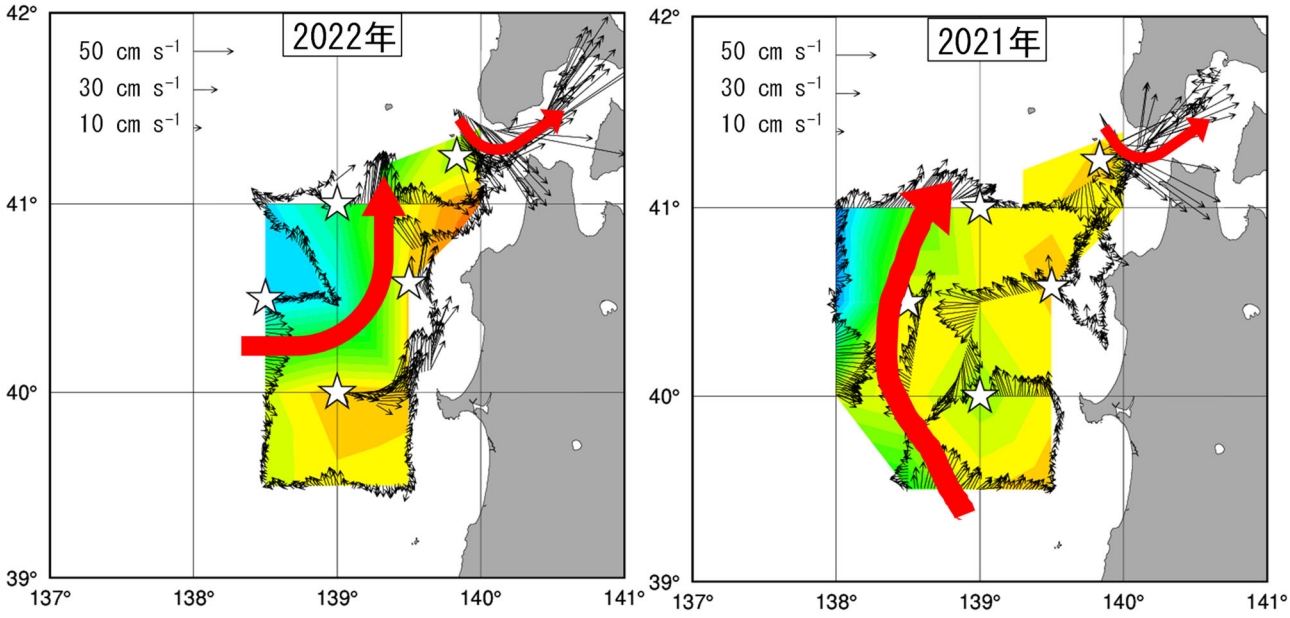

図 2　2022 年（左）と 2021 年（右）の深度 50m の流向流速と水温分布図
赤い矢印は対馬暖流と津軽暖流の模式図　　☆は漁獲調査点。

3. スルメイカ分布密度（図 1、図 3）

漁獲調査点 5 地点の CPUE（2 連式イカ釣機 1 台 1 時間当たり漁獲尾数）は 0～0.25（昨年 0～0.20）の範囲にありました。CPUE が最も高かったのは松前小島近辺の St.21 で CPUE は 0.25（昨年も St.21 で最も高く CPUE は 0.20）でした。St.6 と St.15 でも漁獲はありましたが CPUE は低い値（0.13～0.20）でした。St.1 と St.11 では、漁獲がありませんでした。

漁獲調査を行った 5 地点の平均 CPUE は 0.12 で、昨年の 5 地点の平均（0.09）と同程度で、過去 5 年の平均（4.9）を下回り、2001 年以降で 3 番目に低い値でした。

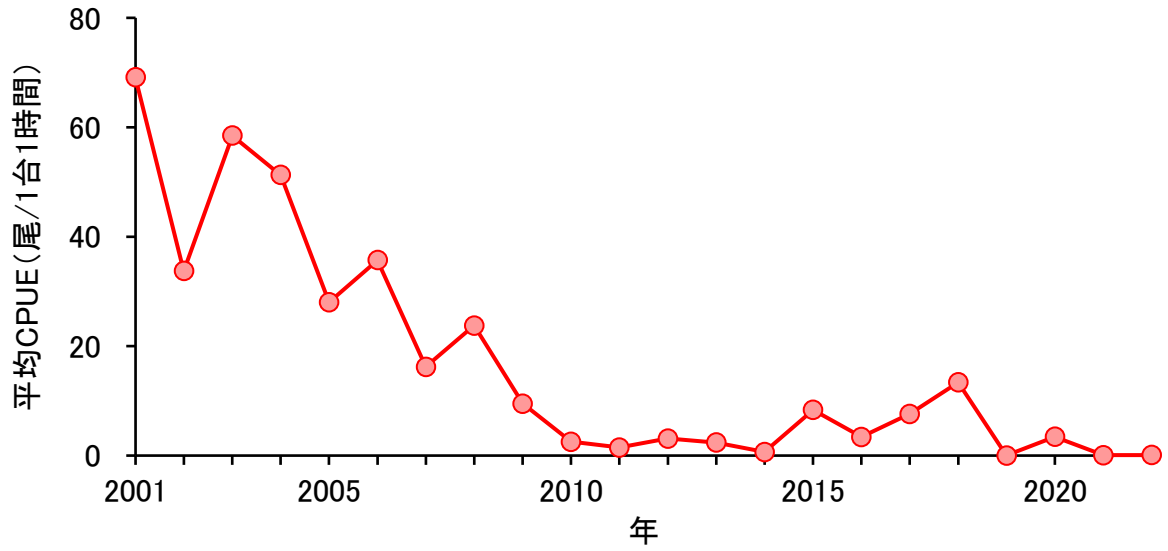

図 3　漁獲調査 5 地点の平均 CPUE の経年変化

4. スルメイカの大きさ（図 4）

今回の調査で漁獲されたスルメイカの外套長の範囲は 7～17cm（昨年 11～15cm）で、最も多く漁獲されたスルメイカの大きさ（外套長のモード）は 14cm で、昨年および過去 5 年平均と同じでした。サイズ組成も昨年および過去 5 年平均と類似していました。

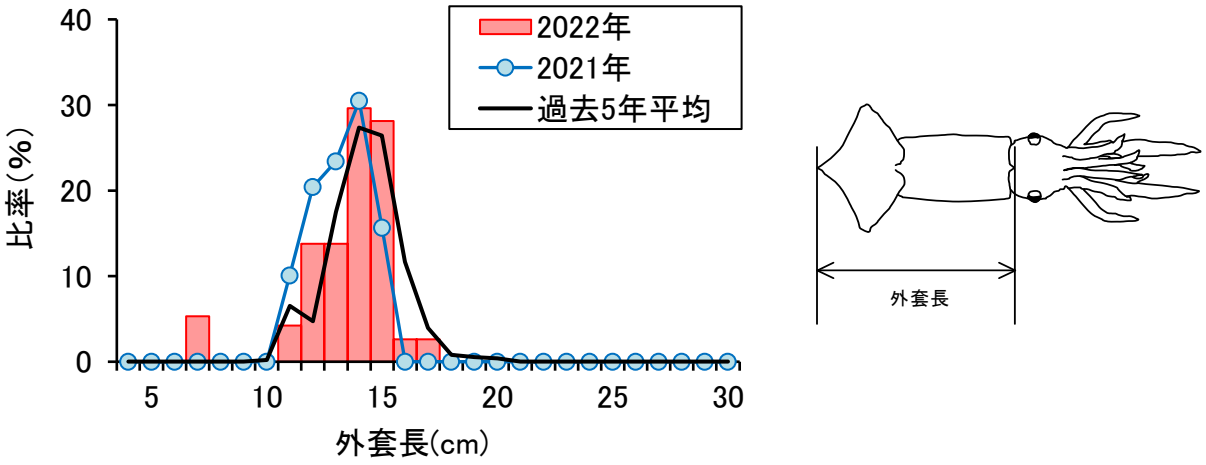

図 4　調査海域全体の外套長組成

（函館水産試験場　調査研究部、TEL：0138-83-2893、FAX：0138-83-2849）